

アビタス 会計の専門家を派遣 中小にIFRS対応促す

アビタス（東京都新宿区、三輪豊明社長、03・3299・3330）

は、IFRS（国際財務報告基準）の対応を進める企業に対し、専門知識を持つ人材の派遣事業をスタートする。派遣するのは日本や米国の公認会計士の資格を持つ人材で、一定期間、派遣社員として派遣先企業に勤務し、IFRSの対応を進める。企業のIFRS対応では、大手の会計事務所などがコンサルティングサービスを行っているが、中小企業にとっては、費用負担が重い。同社は一時的に専門家を雇用することでIFRS関連のコストを軽減できる

ことをアピールし、契約企業の拡大を目指す。

派遣された会計などの専門家は、派遣先の経理の部署などでIFRSに関連した実務をサポートする役割を担う。大手会計事務所とアドバイザー

「契約を結ぶなどのIFRS対応準備は、費用負担が重く、余力がない中小企業も多い。人材派遣サービスを利用することでコストを3分の1程度に抑えられるという。一方、公認会計士など

の有資格者にとっても「資格を取っても働き口があまりなく、双方にとってメリットがある」（三輪社長）という。また契約期間終了後も双方が望めば、契約の延長や正社員としての雇用も視野に入れる。同社では中小企業などに対し、一時的な専門家雇用という新たな形のIFRS対応を提案し収益基盤の強化を図る。